

港合同

16夏季一時金闘争

昌一金属支部闘争報告

全国金属機械労働組合 港合同
 大阪市港区南市岡3・6・26
 TEL 06・6583・4858
 FAX 06・6583・4600

六月七日に地域統一要求である八五万円を提出しました。

春闘以降の経営環境の厳しさを見据えて、要求提出回交には支部の拡大委員全員で参加して生活の厳しさと満額回答で応えてほしいという切実な思いを訴えました。各々の発言は、「一時金は楽しみであり活力になる。モチベーション上がるような回答を」「希望のもてる回答をしてほしい」「少ない人数でがんばっている」「二〇一二年か

ら一〇〜十五万円も回答下がっている。物価、養育費で大変」「会社も厳しいと思うが労働者の生活はもっと大変」「一時金でなんとか生活成り立っている」「電力自由化や原発再稼働など厳しい状況にあるが、攻めの回答をしてほしい」等々。

そして十三日には港合同の回答促進行動が取り組まれました。港合同からは原田副委員長を先頭に、電力の関係では不安定な時期にあり、先を見通せない状況にあるが、



このような時こそ労働者にどう協力を求めていくのか、理解を求めていくのか、ということをよく考えてもらいたいと出されました。社長からは、電力の方向が本当に見えないものになっており、工事は先送り、単価は値切られるなど、厳しい状況が出されました。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

この過程で八日〜十日の間に女性組合員で地域へのピラ入れを取り組んでもらい、また回答促進行動の翌十四日には、早朝から執行部で本社・工場前で管理職・非組合員向けピラまきを行い、回答指定日に向かって行動を展開しました。

十五日の回答指定日交渉で、社長は六三万円を回答。その理由としては高浜原発が運転差し止めとなり、関電が四回目の賞与無しとなっている。昌一金属一社でやってきた製品を関電が公募にかけるなど見通しは悪い。今期の上期の売上状況が前年比マイナス六%で状

況は厳しいが、各職場で大変な中がんばってもらっていることは分かっている、というものでした。

二〇日の交渉では、社長は冒頭に五〇〇〇円の上積み回答をした後は、金額を出せない理由を並べて「もう判断してほしい」と言ってきました。しかし執行部は粘り強く



社長に思い切った上積み回答で働く者に応えるべきだと迫っていきました。社長はしばらく反応せず沈黙が続きましたが、最終的に五〇〇〇円の上積み回答を引き出し、昨年より五〇〇〇円多い六四万円を獲得できたのです。

一六夏季一時金闘争は非常に重要な闘いになりました。地域の仲間皆さんには連日の早朝・昼休み構内集会に支援・連帯を買ってもらいました。こうした力を背景に、

売り上げがマイナス六%でも回答は前年より五〇〇〇円増を叩きだし、人員補充についても春闘でパートII非正規職導入の

提案をしたにも関わらず、今回の交渉では一言も口にさせずに正規での補充に合意させました。

しかし経営は、原発の稼働停止や電力自由化など取り巻く環境の厳しさから、労使の力関係の転換を狙い、外注化と非正規職化で組合つぶし・団結破壊への衝動をやめることはないと思います。

支部の団結と地域共闘の強化、未組織の組織化を通じた組織拡大こそ、こうした敵の目論見を打ち破る力だと思えます。引き続き、地域の仲間と団結して奮闘していく決意です。

昌一金属支部 K